

## 2019年度 事業報告書

2019年4月1日から

2020年3月31日まで

公益社団法人自動車技術会

# ごあいさつ

公益社団法人自動車技術会  
会長 坂本 秀行

まず初めに、現在も猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染拡大により、本年3月以降の催事の多くを中止とせざるをえなくなりました。このような未曾有の事態に対して、自動車技術会の活動を止めることのないよう最大限取り組んでまいりますので、個人会員、賛助会員の皆様には今後とも変わらぬ御支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

平成から令和となった昨年、自動車技術会は一昨年に公表しました「2050年チャレンジ」を実現すべく、新たな企画を次々と打ち出してまいりました。

特に、3月に開催した「自動運転AIチャレンジ」については、新技術領域の方々、団体との連携において、大きな結果を出すことができました。また、技術の進展と社会との関わりの深まりにより、技術者により深い考察と人間性に基づく判断が求められてきていることから、技術者のための倫理育成を検討するWGを起ち上げました。

今年度の主な活動を振り返りたいと思います。

5月の春季大会・展示会では、学術講演会への参加登録者数、展示会の出展小間数・来場者数がいずれも過去最多となる好調なスタートを切りました。7月の名古屋での展示会においても、前回は上回る出展規模、来場者数となりました。その後の8月の名古屋でのキッズエンジニア、昨年はラグビーワールドカップの影響により8月末に開催しました学生フォーミュラ日本大会、10月の仙台での秋季大会などの各イベントを成功のうちに開催することができました。学生フォーミュラ日本大会においては、今年度も認知度向上のためドキュメンタリー番組を制作し、昨年10月に全国放送いたしました。学術研究分野事業、標準化事業、及び出版事業においても、自動運転を始めとする新しい技術分野への対応など、精力的に活動して参りました。

会員数におきましては、賛助会員数は今年度末720社と昨年の690社から大きく数を伸ばしました。個人会員数につきましては、残念ながら2年連続減少傾向となりました。そのため、昨年末に総務委員会会員対策タスクフォースを設置し、状況分析を行ったうえで、より魅力的な会員サービスをご提供するべく検討を重ねてまいりました。

2020年度の始まりは不透明な状況ではありますが、自動車技術会としましては、個人会員、賛助会員の皆様とともに、この危機を乗り越え、さらに発展してまいりたいと存じます。

引き続き、会員並びにご関係者の皆様より、一層のご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 2019 年度事業の概要

2019 年度事業方針は昨年度に策定されました“2050 年チャレンジに基づくロードマップ”を実行することが柱となっております。また、弊会の会員数が減少傾向にある事も課題と捉え、会員サービスの増強を含めた対応を策定して事業を推進してまいりました。しかしながら、今期終盤において新型コロナウイルス感染症が発生し、全世界規模で社会活動が大きく減速し弊会にも大きな影響がありました。本年度はこのような様々な事業変動がありましたので、各事業の詳細に入る前に、概要をご報告いたします。

### 1. 2050 年チャレンジに基づくロードマップ実現に向けた事業展開

今後の自動車技術にとって重要な CASE の中で自動運転に関する委員会活動を加速し、次年度に「自動運転技術部門委員会」を新設して活動を継続強化することとした。このような最新の技術トレンドを広く発信するため、人とくるまのテクノロジー展においては主催者企画展示を強化し、新たな自動車技術が創る将来像を提案し、会誌においても自動運転の社会受容性といった広い視点に立った記事の充実を図った。また、このような新しい技術分野の人材を育成することを目的に昨年度から新たに事業化した「自動運転 AI チャレンジ」の一層の充実を図ると共に技術者倫理のあり方検討 WG を立ち上げた。

### 2. 会員対策

弊会の個人会員数は 2018 年度の 48,948 名から 2019 年度の 48,846 名と 102 名減（0.2%減）と緩やかであるが減少しつつあるため、魅力ある会員サービスに努め会員数の維持増強を図る必要があると認識している。このため、総務委員会傘下に「会員対策タスクフォース」を新設し、会員動向の分析、対策の検討を進めた。

- ① 会員動向：2019 年度の正会員数は企業を退職するタイミング（61 歳頃）で退会する方の数と新卒を含めて新たに入会される方の数がほぼ同数となっており均衡を保っている。一方で、学生会員については約 100 名の減少となっている。
- ② 対策の方向性：上述の会員対策 TF にて対策を検討し、会員への様々な最新情報を提供する「会員情報プラットフォーム（仮称）」の構築および様々な技術領域に携わる様々な立場の人が集い交流する「交流の場」を充実することに着手し、引き続き追加施策の検討を行うこととした。

### 3. 新型コロナウイルス感染症対応

2020 年初頭より我が国においても新型コロナウイルス感染症の拡大が深刻化し、緊急事態宣言が発出された。そのような環境下においても全ての事業の継続を目指したが、関係者の安全と健康を最優先と考え、事業の大幅な見直しを遅滞なく行うこととした。

- ① 各委員会活動の維持：対面での委員会活動は自粛せざるを得なくなったが、WEB 会議システムを使った情報交換等は継続した。
- ② 理事会機能の維持：WEB 会議システムを使用して理事会機能を維持し、緊急対応を決議するため

3月24日の臨時理事会と4月22日定例理事会（緊急議案の追加）を開催して以下を決定した。

- ・2020年春季大会（学術講演会及び関連行事）開催中止
- ・自動車技術展（人とするまのテクノロジー展2020横浜および名古屋）開催中止
- ・学生フォーミュラ日本大会2020開催中止
- ・第2回自動運転AIチャレンジ決勝大会中止
- ・キッズエンジニア2020開催中止
- ・その他の催事の開催可否判断について、緊急事態宣言が発出された場合には会長に一任する

③ 事務局機能の維持：本部・支部事務局職員は在宅勤務としたが、会務運営に支障がないよう、リモートワークシステム、WEB会議システムの増強を緊急で実施し、各種決定事項等の弊社ホームページへの告知および関係者へのメール連絡等により速やかに告知可能な体制を確保した。

以上のように、本年度はステークホルダーの皆様からのご支援により当初に定めた事業方針に基づき順調な会務運営を行い、主要行事を推進してまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により最終盤に大幅な事業計画見直しに至りました。現在も社会的に大きな影響が残っており、一刻も早い終息をお祈りいたします。

このような状況下ではありますが、弊社としましては自動車技術の発展のために微力ながらも貢献できますよう、困難を乗り越え、新たな視点に立って次年度の活動を継続してまいりますので、引き続きご支援とご協力を宜しくお願い申し上げます。

公益社団法人自動車技術会  
総務担当理事 豊増 俊一

## 1 総 会

2019年5月23日（木）パシフィコ横浜（横浜市）において第9回定時総会を開催した。  
坂本会長（2018-2019年度）の議長により次の議案が審議され、いずれも異議なく可決された。

出席者による議決権の総数：187個（委任状を含む）

議案：

第1号議案：2018年度決算報告の件

第2号議案：理事交代の件

第3号議案：名誉会員推薦の件

報告事項

(1) 2018年度事業報告の件

(2) 2019年度事業計画の件

(3) 2019年度予算の件

## 2 役員会

理事会4回、新型コロナウイルス感染症への対応に係る臨時理事会1回、担当理事会2回、及び支部担当理事会2回を開催した。

### 3 会 員

2019年度中の個人会員の入会者数は4,004名、退会者数は4,106名で、2020年3月31日現在の個人会員数は、前年度に対し102名減（約0.2%減）の48,846名となった。賛助会員の入会数43社、退会数は17社で、2020年3月31日現在の会員数は前年度比26社増の695社となった。

会員資格別会員数の推移（毎年度末現在）

	名誉会員	正会員	学生会員	合 計	賛助会員
2015年度	49	46,115	2,196	48,360	589
2016年度	50	46,464	2,473	48,987	615
2017年度	52	47,150	2,214	49,416	642
2018年度	51	46,887	2,010	48,948	669
2019年度	50	46,882	1,914	48,846	695

支部別会員数の推移（毎年度末現在）

	北海道支部	東北支部	関東支部	中部支部	関西支部	九州支部	海 外	合 計
2015年度	216	622	18,462	22,059	5,855	854	292	48,360
2016年度	240	564	18,714	22,286	6,046	858	279	48,987
2017年度	212	575	18,680	22,497	6,247	939	266	49,416
2018年度	215	527	18,483	22,153	6,390	930	250	48,948
2019年度	212	530	18,421	22,243	6,311	882	247	48,846

### 4 調査及び研究（定款第5条1号、公益目的事業1）

自動車及び自動車関連技術の調査・研究・交流活動を目的とする46部門委員会の活動を推進した。

共同研究センターでは、産学連携事業、他学会協会との連携事項、受託研究事業などを目的とする4委員会が活動を推進した。うち、「自動運転委員会」は、共同研究センター傘下での活動を終了した。技術会議傘下には、2020年度に「自動運転技術部門委員会」を新設することになった。

部門委員会と共同研究センター傘下の各委員会の企画により、2019年春季大会においては76件のオーガナイズドセッション（OS）及び13件のフォーラムを実施、名古屋展示会においては、2件のフォーラムを実施し技術交流の促進に大きく貢献した。国際会議関係では、「2019P,F&L」、「SETC2019」、また、「第30回内燃機関シンポジウム」を開催した。

技術会議においては、イノベーション創出委員会にて、新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の企画・設置・改廃検討を行うための検討をした。

年度終盤は、新型コロナウイルスの影響で活動の制限・催事中止を余儀なくされたが、ウェブ活用による活動を推進した。

## 技術会議

技術会議	技術会議組織の適正な運営、ならびに技術の向上を目指す交流活動の企画、推進、調整のための論議を行った。2回開催。	
運営検討委員会	技術担当理事により、技術会議組織の適正な運営のための種々の課題に関する論議を行った。2回開催。	
イノベーション創出委員会	今年度新設。新しい技術分野の委員会や、異分野領域と連携した技術委員会の再編・統廃合の検討を行った。1回開催	
合同会議	2019年8月23日開催(早稲田大学理工学部 西早稲田キャンパス)。約145名出席。基調講演2件。事務局から事業報告と2020年度事業計画策定を依頼。技術部門貢献賞表彰、及び懇親会を開催。	
分野連絡会	各委員会の独自領域と共有領域を明確にすることなどを審議・検討、及び共有領域の技術について情報交換を行う。	
部門委員会	46部門委員会で活動。委員会延べ開催数194回、話題提供数402件。(新型コロナウイルスの影響により、2月25日以降開催予定だった委員会26件が中止、話題提供44件が中止)	
学術講演会運営委員会	春季・秋季大会の学術講演会のセッション編成、優秀講演発表賞受賞者の選定、等を行った。	
国際会議	以下の国際会議を開催した。 ・2019P,F&L(2019/8/25～29、京都テルサ) ・SETC2019(2019/11/19～21、広島国際会議場) ・第30回内燃機関シンポジウム(2019/12/10～12、広島国際会議場)	
OS・フォーラム	OS:2019年春季大会にて77件を実施 フォーラム:2019年春季大会にて13件、名古屋展示会にて2件を実施	
シンポジウム・講習会	シンポジウム:18件実施(企画・準備した計22件のうち、新型コロナウイルスの影響により4件が中止) 講習会:4件実施 シンポジウム、講習会合わせて総参加者動員数1,828名	
公開委員会	11件実施(企画・準備した計15件のうち、新型コロナウイルスの影響により4件が中止)	
研究調査事業	8委員会が9テーマで実施。予算総額:6,635千円	
受託・請負事業	大気環境技術・評価部門委員会 受託先:日本自動車工業会	
その他活動	振動騒音部門委員会	第9回技術者育成プログラム(主に学生対象)
	流体技術部門委員会	第4回技術者育成プログラム(主に学生対象)
	デザイン部門委員会	第7回二輪デザイン公開講座 第8回中高生対象カーデザインコンテスト
	材料部門委員会	日本鉄鋼協会と「自動車用材料共同研究調査会」で連携
	構造形成技術部門委員会	新構造材料技術研究組合(ISMA)と「マルチマテリアル構造設計技術調査委員会」で連携
	自動車制御モデル部門委員会	計測自動制御学会と連携

## 共同研究センター

運営委員会	共同研究センターの運営他について議論した。2回開催。	
委員会活動	4委員会にて調査研究活動を推進。委員会延べ開催数15回、話題提供者数20名。「自動運転委員会」が8月に活動終了。	
OS・フォーラム	OS:2019年春季大会にて2件企画・実施 フォーラム:2019年春季大会にて委員会合同にて2件、名古屋展示会にて3件を実施	
受託・請負事業	1委員会が1テーマで実施。予算:3,388千円	

P,F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting

SETC: Small Engine Technology Conference

OS: Organized Session

## 5 研究発表会及び学術講演会等の開催

(定款第5条2号、公益目的事業2・3・自動車技術展は収益事業)

春季大会は過去最多の参加者数となった。秋季大会も前回の仙台大会を大幅に上回る2,251名(2014年仙台開催時 1,931名)の参加者があり盛況裡に開催した。自動車技術展：人とするまのテクノロジー展は、5月に横浜、7月に名古屋で開催した。横浜、名古屋ともに前回は上回る出展社数、来場者数となった。

<b>春季大会 &lt;2019年5月22日(水)～24日(金) パシフィコ横浜(横浜市)&gt;</b>	
学術講演会	89セッション、講演数433編(うち英語講演数116編)、参加登録者数6,388名
フォーラム	18件、聴講者数計5,335名
Keynote Address、JSAE Annual Party(技術者交流会)、女性技術者ネットワーキングカフェ	
<b>秋季大会 &lt;2019年10月9日(水)～11日(金) 仙台国際センター(仙台市)&gt;</b>	
学術講演会	67セッション、講演数316編(内、英語講演16編)、参加登録者数2,251名
Technical Review、市民公開特別講演、秋季大会パーティ(技術者交流会)、学生フォーミュラ車両展示、産学ポスターセッション、女性技術者ネットワーキングカフェ	
<b>自動車技術展 &lt;2019年5月22日(水)～24日(金) パシフィコ横浜(横浜市)&gt;</b>	
<b>&lt;2019年7月17日(水)～19日(金) ポートメッセなごや(名古屋市)&gt;</b>	
人とするまのテクノロジー展 2019 横浜	出展数624社/1197小間、来場者数95,900名、貢献出展社15社を表彰
人とするまのテクノロジー展 2019名古屋	出展数377社/817小間、来場者数45,514名、貢献出展社3社を表彰
<b>シンポジウム</b>	
委員会企画 シンポジウム・講習会	計22回を開催、計1828名参加(新型コロナウイルスの影響により、2月末～3月末の4回を中止)

## 6 学術誌及び学術図書の刊行(定款第5条3号、公益目的事業1・2・3)

本年度は、「2050年チャレンジ」を基に制定した編集会議ロードマップの各事業を、昨年度から引き続き実行した。また出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった13名の方に出版・編集功績感謝状を贈呈した。

### 資料収集・調査研究に関する学術誌の発行(公1)

会誌「自動車技術」	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車技術者、研究者などにとって有益なテーマを毎月特集テーマとして取り上げタイムリーな記事を掲載</li> <li>魅力ある会誌作りに向けた編集体制の強化</li> <li>年鑑号英語版のウェブサイト掲載を継続</li> <li>年間発行部数約 62万部</li> </ul>
自動車技術—文献抄録集—	毎月発行し、3002件の文献を掲載した
JSAE エンジンレビュー	電子版不定期刊行物として発行 2019年度は、Vol.9 No.2～Vol.10 No.2として、計7回発行した 閲覧ページのHTML化を行った
日本の自動車規格(2018年日本語版)	JASO 規格 371件、TP・TR 67件、JIS 規格 386件、TRIAS 285件を収録
JASO 規格(英語版)	英訳された JASO 規格 303件を収録

高翔	関東支部企画・編集により2回発行
宙舞	中部支部企画・編集により2回発行
関西支部ニュース	関西支部企画・編集により2回発行
オートテクノロジー2020	第69回自動車技術会賞・技術開発賞受賞者へのインタビュー記事を収録しWEBにて公開
テストングツール 最前線 2019	自動車開発の現場を支える試験・計測・診断・評価・検証ツールなどソリューション情報をまとめた記事広告誌として発行(63,500部)。会員のほか、人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布
次世代自動車技術 最前線 2019	次世代自動車に関係する各社の技術や取り組みをまとめた記事広告誌として発行(63,500部)。人とくるまのテクノロジー展来場者にも配布
<b>研究発表に関する学術誌の発行 (公2)</b>	
自動車技術会論文集	・年6回発行し、224編を J-STAGE にて公開した ・昨年度新たに導入したオンライン論文投稿・査読システム(ScholarOne)の定着化
International Journal of Automotive Engineering	英文の電子ジャーナルとして年4巻発行、30編を J-STAGE にて公開した
学術講演会予稿集 DVD	2019年春季大会分 433件・秋季大会分 314件を発行
Summarized Paper	2019年春季・秋季大会での発行分を WEB 上で公開
フォーラム資料	18冊発行、合計 107文献を発行
<b>人材育成に関する学術図書の発行 (公3)</b>	
シンポジウム・講習会 テキスト	25冊発行、合計 114文献を発行
関西支部	学自研機関誌(学自研ニュース)2回発行
九州支部	学自研機関誌(Eternal Car Life 22号)発行
<b>広報関連他の発行</b>	
プレスリリース	15件配信
ニュースレター JSAE Eye	4回発行(4月、7月、10月、1月)
JSAE メールマガジン	イベント、新着文献等の情報を配信(登録者:約4万名)
北海道支部	支部だより1回発行
関東支部	行事案内3回発行
中部支部	支部ニュース6回発行
関西支部	行事案内7回発行

## 7 人材の育成（定款第5条4号、公益目的事業3）

第17回 学生フォーミュラ日本大会2019には、98チームが参加登録、海外21チームを含む89チームが本大会に出場した。キッズエンジニア2019は名古屋で開催し、6,451名の参加者を集めた。また、支部主催の小学生向けものづくりプログラムも活発に行なわれた。自動車開発・製作セミナーは、座学講座編、競技車両見学編、ものづくり編を実施した。新分野のエンジニア育成講座として、自動車サイバーセキュリティ講座を昨年度に引き続き開催した。また、自動車工学基礎講座はモーターサイクル工学講座2回を含め計8回開催した。自動車エンジニアレベル認定では、7名のJSAEフェローエンジニア、18名のJSAEプロフェッショナルエンジニア、37名のJSAEシニアエンジニアおよび442名のJSAEエンジニアを認定した。さらに、倫理育成検討WG設置し、先進技術開発における技術者倫理のあり方について議論を行った。

### 自動車工学講座

基礎講座	第59回:参加者90名、2019年4月2日～4日 Chaophya Park Hotel (タイ)
	第61回:参加者159名、2019年6月18日～19日、7月30日～31日、広島県情報プラザ(広島)
	第62回:参加者107名、2019年9月3日～6日、名城大学(愛知)
	第63回(モーターサイクル工学):参加者486名、2019年9月25日～27日、静岡文化芸術大学(静岡)
	第64回(モーターサイクル工学入門):参加者129名、2020年2月5日、東京カルチャーカルチャー(東京)
	第65回:参加者458名、2020年2月11日～13日、本田技術研究所(栃木)
	第66回:新型コロナウイルスの影響により延期
	<浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター共催>
	第1回自動車工学基礎講座:参加者104名、2019年11月20日、ホテルクラウンパレス浜松(静岡)
	第2回自動車工学基礎講座:参加者83名、2019年12月11日、ホテルクラウンパレス浜松(静岡)
JSAE ナイトセミナー	第8回:参加者36名、2019年7月25日、自動車技術会(東京)
	第9回:参加者17名、2019年8月9日、自動車技術会(東京)
自動車サイバーセキュリティ講座	第3回:参加者149名、2019年8月29日～30日、工学院大学(東京)
	演習・実習編①:参加者7名、2019年11月29日、自動車技術会(東京)
	演習・実習編②:参加者8名、2019年12月13日、自動車技術会(東京)
	演習・実習編③:2020年3月10日～11日、自動車技術会(東京)(新型コロナウイルスの影響により中止)

### 自動車開発・製作セミナー

座学講座編	参加者60名、2019年8月28日(水)～29日(木)、エコパ(静岡)
	参加者20名、2019年12月14日(土)、自動車技術会(東京)
	参加者25名、2019年12月21日(土)、神奈川工科大学(神奈川)
車両運動性能向上実践編	参加4チーム、2019年8月31日(土)、エコパ(静岡)
競技車両見学編	参加者5名、2019年4月13日(土)、岡山国際サーキット(岡山)
	参加者6名、2019年5月25日(土)、鈴鹿サーキット(三重)
	参加者4名、2019年11月2日(土)、ツインリンクもてぎ(栃木)

	2020年3月14日(土)、日産 GRANDRIVE (神奈川) (新型コロナウイルスの影響により中止)
走行実習編	2020年3月18日(水)、鈴鹿サーキット交通教育センター (三重) (新型コロナウイルスの影響により中止) 2020年3月26日(木)～27日(金)、美祢自動車試験場(山口) (新型コロナウイルスの影響により中止)
ものづくり編	参加者17名、2020年2月27日(木)～28日(金)、ものづくり大学(埼玉)
EVクラス	2020年3月14日(土)、日産 GRANDRIVE (神奈川) (新型コロナウイルスの影響により中止)
回路製作実習編	2020年3月14日(土)、日産 GRANDRIVE (神奈川) (新型コロナウイルスの影響により中止)

#### 支部の講演会・見学会等

北海道支部	見学会1回、講演会6回(協賛含む)、市民講座5回を開催
東北支部	見学会2回(関東支部共同企画含む)、講演会2回、市民講座を3県9回開催
関東支部	関東支部 定例の講演会、講習会、見学会を合計19回開催 今年で10回目となる学生の国際交流活動をタイおよび台湾 SAEとの相互交流として実施予定であったが、新型コロナウイルスの影響により日本人学生の台湾派遣のみ実施
中部支部	講演会3回、研究発表会1回、見学会14回(2回中止)、技術講習会5回、技術交流会2回、技術者懇談会3回、体験型講習会2回を開催
関西支部	見学会6回(九州支部との合同見学会を1回含む)、講演会1回、技術者懇談会1回を開催、技術者交流会(新型コロナウイルスの影響により中止)
九州支部	講演会3回、見学会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)、関西支部との合同例会(見学会、講演会)1回、市民講座3回、技術者交流会1回を開催

#### 技術者・研究者の認定制度

	JSAE フェローエンジニア 7名
第14回自動車エンジニアレベル認定	JSAE プロフェッショナルエンジニア 18名 JSAE シニアエンジニア 37名 JSAE エンジニア 442名を認定

#### 第17回 学生フォーミュラ日本大会 2019—ものづくり・デザインコンペティション—

2019年8月27日(火)～31日(土)にエコパ(静岡県掛川市/袋井市)で開催

- ・来場者：16,332名(延べ人数)
- ・参加登録チーム:98チーム(国内71(ICV59・EV12)、海外27(ICV13・EV14))
- ・本大会参加チーム:89チーム(国内68(ICV58・EV10)、海外21(ICV11・EV10))
- ・車検通過:70チーム(全種目通過)
- ・エンデュランス走行台数:67台(内、完走:39台)
- ・総合成績:1位 名古屋工業大学、2位 横浜国立大学、3位 名古屋大学EV、4位 Tongji University、5位 神戸大学、6位 茨城大学

支部合同試走会	8月5日(月)～7日(水)にエコパにて関東・中部・関西合同試走会開催
北海道支部	車検講習会1回、合同試走会1回、学生フォーミュラ日本大会2019報告会を開催
東北支部	模擬機械車検会、模擬EV車検会、試走会2回開催、第17回学生フォーミュラ日本大会2019EV部門へ2チーム参加
関東支部	6月に騒音講習会、7月に模擬車検大会、8月に燃料ヘルプデスク、ダンパ相談会、もてぎ試走会、10月に溶接講習会、12月にダンパ講習会を実施
中部支部	走行技術トレーニング3回(小笠山総合運動公園)、支部合同試走会へ9チームが参加、第17回学生フォーミュラ日本大会に16チームが参加
関西支部	関西支部独自の試走会5回、講習会・勉強会を6回開催、第17回 学生フォーミュラ日本大会2019に17チームが参加
九州支部	試走会5回(5月、7月、8月2回、12月)、基礎講座1回(5月)、車検講習会1回(7月)、安全運転講習会1回(8月)、溶接講習会(9月)、勉強会1回(5月)を開催、リーダーミーティング2回(10月、3月)第17回全日本 学生フォーミュラ大会に5校 5チームが参加

<b>自動運転 AI チャレンジ</b>	
2020年6月14日(日)東京大学生産技術研究所附属千葉実験所での決勝走行競技開催に向けて準備活動を推進。2019年度中は予選競技として経済産業省主催 AI エッジコンテストならびに本会主催のオンラインシミュレーション競技を開催した。	
<b>キッズエンジニア 2019</b>	
2019年8月7日(水)、8日(木)にポートメッセなごやで開催。小学生及びその保護者を対象に教室型プログラム28件、体験展示型プログラム11件の39件を実施。参加者6,451名。	
<b>支部の小学生プログラム</b>	
北海道支部	市民講座1 キッズエンジニア in 札幌2019 市民講座2 メカライフの世界展(日本機械学会北海道学生会を協賛) 市民講座3 くるま未来体験教室(関東支部と共同開催) 市民講座4 キッズエンジニア in トヨタ自動車北海道2019 市民講座5 キッズエンジニア in 北海道自動車整備大学校2019
東北支部	市民講座10 「自動車の作り方と東北の自動車工場」を1回開催 キッズエンジニア in 東北2019をスリーエム仙台市科学館と福島市子どもの夢を育む施設こむこむ館にて各1回開催。県内外の小学1～6年生を対象に児童延べ1,111名が参加。協賛7社
関東支部	小学生くるま未来体験教室7回開催(内1回は北海道支部との共同開催)
中部支部	キッズ・モノづくりワンダーランド10回開催 (うち1回はキッズエンジニアに2日間出展)
関西支部	堺市 大阪府立大学にて「キッズエンジニア」開催 茨木市 教育センターにてキッズエンジニア「燃料電池自動車を走らせよう！」(水素で動くクルマ)開催
九州支部	キッズエンジニア in 九州(三団体と協賛)
<b>次世代カーデザイナー人材育成プログラム「中高生諸君！カーデザインに挑戦！」</b>	
第8回カーデザインコンテスト	応募345作品、6名に各賞を授与、佳作23件
<b>技術者倫理のあり方検討</b>	
技術者のための倫理育成検討WG	2020年春季大会でフォーラムを企画 会誌(2020年4月号)に寄稿
<b>学生活動企画委員会の活動</b>	
学生向けウェブ活動	学生向けの情報発信として、SNS(Facebook)を活用し、学生委員による企業訪問、イベント訪問などの取材を13件実施。
<b>学生安全技術デザインコンペティション</b>	
国内の大学に安全技術デザインの提案を募集し、2019年8月末までに6大学6チームがエントリーした。エントリーチームを対象に、トヨタ自動車の施設見学会・技術者とのディスカッションを実施した(2019年10月)。書類選考(2019年11月)を実施。 日本大会決勝(2020年3月)(新型コロナウイルスの影響により中止)	
<b>学生自動車研究会(学自研)の活動</b>	
北海道支部	学自研参与・学生委員合同会議1回、学自研参与会議2回(内メール開催1回)、若手メカニックとの交流会1回、若手エンジニアとの交流会1回、舗装路セーフティドライビングコンテスト1回、雪氷路セーフティドライビングコンテスト1回、EV回路製作セミナーを開催
東北支部	支部学自研大会1回、運営委員会3回、学自研参与会2回、講演会1回、見学会1回、第38回タイヤ研修会1回、第29回自動車技術独創アイデアコンテスト1次(58アイデア)・2次(12アイデアより最優秀賞2名)、第30回手作り自動車省燃費競技大会(14チーム)、第34回整備コンテスト(17チーム)及び運転適性診断実施

関東支部	学自研大会1回、参与会1回、支部学生委員会12回開催 見学会、講演会などを7回開催 学術研究講演会(新型コロナウイルスの影響により中止)
中部支部	参与会2回、学生委員会5回、学生委員会引継会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)、ものづくりセミナー1回、模擬車検1回、基礎技術交流会1回、人とくるまのテクノロジー展2019名古屋にプレゼンテーションとフォーミュラカー展示1回、中部支部交流会1回、東京モーターショー視察1回、ドライビング講習会1回、静的交流会1回、スズキエンジン講習会1回、雪上ドライビング講習会(新型コロナウイルスの影響により中止)、ICV・EV 比較試走会1回開催
関西支部	参与会1回、運営委員会4回、講演会4回、見学会8回、交歓会、小学生科学教室、試乗会、卒業研究発表会を各1回開催、学生フォーミュラ運営委員会6回、学自研ニュース2回発行
九州支部	学自研総会1回、研究発表会1回、講演会2回、安全運転講習会1回、懇親会1回を開催、学自研機関誌1回発行

## 8 規格の作成及び普及 (定款第5条5号、公益目的事業1)

規格会議では、長期計画に基づいて、自動車標準化委員会(自動車分野)とITS標準化委員会(ITS分野)による活動を行った。

自動車標準化委員会では、ロードマップの長期的施策検討のため、「超スマートモビリティ・社会システム標準化検討会(準備会)」を立ち上げた。長期計画は対外変化にも迅速に対応するため毎年メンテナンスすることに改め、また委員派遣計画の共有化を進めた。また、他団体等との連携では、自工会リエゾン強化に加え、経済産業省と定期的な情報交換、日本自動車研究所が担当する電動化領域との連携を進めた。さらに、国内規格活動のJIS/JASO規格審議委員会では、規格の見直しフローを明確化し、規格活用調査を実施した結果、廃止提案の増加がみられ、適正な見直し(継続、改正、廃止)が行われた。

ITS標準化委員会では、「ITS分野の国際標準化戦略5ヶ年計画(2020年)」を策定したほか、ISO/TC204の2回の総会に日本代表団、WG14専門家を派遣する等の活動を実施した。

自動運転標準化検討会では、TC22及びTC204の各SC/WGの動向についての情報交換、日本の対応策検討を行い、日本におけるTC22及びTC204活動ロードマップの作成に着手した。

経済産業省 産業標準化事業表彰において、これまでの標準化活動の功績が認められ、経済産業大臣表彰を2名、産業技術環境局長表彰を3名が受賞した。

また、ISO国際標準化活動のみならず、日本の意見を米国SAE標準にも反映するため、本会とSAE Internationalの委員会交流による標準化活動を可能とする覚書(MOU)の更改を行った。

### 自動車標準化委員会、JIS/JASO規格審議委員会(自動車分野)

ISO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TC22/SC/WG会議</li> <li>会議出席: 129会議313名(ウェブ会議:23会議)</li> <li>日本開催: 7WG(SC31/V2G, SC35/WG2/WG3, SC39/WG3/WG5/WG7/WG8)</li> <li>・5件の新規作業項目(NP)制定提案</li> <li>-自動車-安全性検証シナリオの技術フレームワークとプロセス</li> <li>-二輪自動車-ISO26262第12部と他部の比較(TR)</li> <li>-自動車-車両コミュニティ試験:第4部 ハーネス誘起法</li> </ul>
-----	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>-二輪自動車-シャシダイナモメータ上におけるモード走行時の総走行抵抗検証法ガイドライン (TR)</li> <li>-二輪自動車-26262 第12部 MSIL 分類のユースケースに関する考察 (TR)</li> <li>・76 件の国際規格案 (DIS) 回答</li> <li>・9 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>- ISO21755-1 二輪車-蒸発ガスの測定方法 第1部 SHED 試験手順</li> <li>- ISO21755-2 二輪車-蒸発ガスの測定方法 第2部浸透試験手順</li> <li>- ISO20574 自動車-アイトリングストップ用スターター耐久試験法</li> <li>- ISO22565 自動車-アイトリングストップ用スターター耐久試験法</li> <li>- ISO/TR21959-1 自動車-自動運転時のドライバ状態と発揮能力 第1部共通する基本概念</li> <li>- ISO/TR21959-2 自動車-自動運転時のドライバ状態と発揮能力 第2部運転引継ぎ能力調査の実験ガイダンス</li> <li>- ISO21441 自動車-EGR クーラ放熱性能試験方法</li> <li>- ISO21956 自動車-キーレスイグニッションの操作に関する HMI 仕様</li> <li>- ISO21111-4 自動車-車載用イーサネットの概要と定義</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第14回 ISO 研修会 基礎編(7月23日、7月30日) 参加者96名 内容:ISO の基礎知識</li> <li>・第15回 ISO 研修会 実践編(12月18日) 参加者8名 内容:ISO エキスパート2名による講演、グループディスカッション</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・CATARC(中国自動車技術研究センター)が来日し、中国と日本の標準化活動における意見交換会を開催(9月18日)</li> <li>・SAE InternationalとMOU 締結(更改)(3月12日)</li> </ul>
JIS	<ul style="list-style-type: none"> <li>・改正原案5件、廃止提案13件</li> <li>・JIS、JASO 原案作成講習会: 6月6日・6月12日 参加者16名(10委員会)、2月18日・2月19日 参加者17名(12委員会)</li> </ul>
JASO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制定8件、改正3件、小改正4件、廃止12件、テクニカルペーパー制定1件、改正2件、廃止3件</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10次自動車に関する規格制定・改正長期計画のメンテナンス実施</li> <li>・自動運転標準化検討会における TC22、TC204、自工会、JASIC の連携促進</li> <li>・座談会「自動運転時代の国際標準化活動」(5月14日)(自動車技術9月号掲載)</li> <li>・12部会、63分科会を設置、構成委員数1,827名、開催数347回</li> </ul>
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業(自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築)委託元:野村総合研究所</li> <li>・戦略的国際標準化加速事業(D-Call Net 死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化)委託元:三菱総合研究所</li> <li>・2019年度標準化事業 委託元:日本自動車工業会</li> </ul>
表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動功労者感謝状贈呈 11名</li> <li>・産業標準化事業表彰:経済産業大臣表彰 1名、産業技術環境局長表彰 2名</li> </ul>

## ITS 標準化委員会（高度道路交通システム分野）

ISO	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TC204 及び関連国際会議</li> <li>会議出席:29 会議 76 名</li> <li>・日本開催</li> <li>－WG14 自動バレー駐車システム原案作成会議 1 回</li> <li>・4 件の予備業務項目 (PWI) 提案</li> <li>－自動料金収受システム－IC カードを利用した車載器のセットアップ方法</li> <li>－トラック隊列走行システム (TPS) のフレームワーク及び共通要件</li> <li>－プローブ車両データの共有のためのユースケース</li> <li>－スマートシティの ITS サービスアプリケーションのためのロールモデル</li> <li>・18 件の国際規格案 (DIS) 回答</li> <li>・7 件の日本提案・主導による国際標準規格等発行</li> <li>－ISO 12813 DSRC による自律型システムの準拠性チェック</li> <li>－ISO/TR 14823-2 グラフィックデータ辞書</li> <li>－ISO 15638-22 商用貨物車テレマティクスアプリケーション (TARV) のフレームワーク</li> <li>－ISO 20900 部分的自動駐車システム (PAPS)</li> <li>－ISO/TS 21192EFC 支援による交通マネジメント</li> <li>－ISO/TS 21193 共通支払いメディアへの EFC アプリケーションインターフェース要件</li> <li>－ISO26683-3 貨物輸送コンテンツの識別と通信</li> </ul>
委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレット「ITS の国際標準化 2019」を発行</li> <li>・ITS 分野の国際標準化戦略 5 年計画 (2020) を策定</li> <li>・ITS 標準化専門家会議 (次世代モビリティシステムの開発と標準化の役割) (2 月 18 日) 参加者数:213 名</li> <li>・ITS 標準化委員会、技術委員会、ITS 国際標準化戦略タスクフォース、WG14 分科会関連、その他の国内会議を 51 回開催、969 名出席</li> </ul>
受託事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省エネルギー等に関する国際標準の獲得・普及促進事業委託費 (省エネルギー等国際標準開発 (国際標準分野)) (スマートモビリティシステムに関する国際標準化及び普及基盤構築) 委託元:野村総合研究所</li> </ul>
表彰	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標準化活動功労者感謝状贈呈 3 名</li> <li>・産業標準化事業表彰:経済産業大臣表彰 1 名、産業技術環境局長表彰 1 名</li> </ul>

JIS: Japanese Industrial Standards

JASO: Japanese Automobile Standards Organization

DIS: Draft International Standard

## 9 内外の関連機関、団体等との提携及び交流

(定款第 5 条 6 号、公益目的事業 1・2・3)

国内では日本学術会議や関係府省庁、日本工学会等関連団体との連携に努め、海外では FISITA や APAC の活性化に協力すると共に、欧米・アジア地域の各国自動車技術会をはじめとする諸機関、団体との交流を推進した。

日本学術会議	協力学術研究団体として連携を図った。安全工学シンポジウム2019 (2019年7月)を共催
経済産業省	<p>省エネルギーに関する国際標準の獲得・普及促進事業 (省エネルギー等国際標準開発 (国際標準分野)):①スマートモビリティシステムに関する国際標準化・普及基盤構築 ②自動運転/高度運転支援システムに関する国際標準化・普及基盤構築)</p> <p>戦略的国際標準化加速事業 (D-Call Net死亡重傷確率推定アルゴリズムに関する国際標準化)</p> <p>第2回自動運転AIチャレンジ (千葉:2020年6月)に向けて連携 (後援)</p>

国土交通省	第26回ESV国際会議(アイントハーフェン:2019年6月)における第8回学生安全技術デザインコンペティションへ日本代表チームを派遣。 自動運転基準化研究所(事務局:自動車基準認証国際化研究センター)における国際基準化活動と国際標準化活動の連携
日本工学会	理事会・事務研究委員会へ委員を派遣し、工学系学術団体との連携を図った
日本機械学会	自動車技術会が幹事となり、第30回内燃機関シンポジウム(広島:2019年12月)を共催
日本規格協会	自動車工学基礎講座・標準化講座への講師を依頼 JIS、JASO 原案作成講習会への講師を依頼
日本自動車工業会	海外におけるPM研究動向の最新研究調査(受託事業)を実施 国際標準検討会・自動運転検討会との連携活動 第2回自動運転AIチャレンジ(千葉:2020年6月)に向けて連携(後援)
日本金属学会	材料部門委員会との活動で連携
日本鉄鋼協会	材料部門委員会と共同設置している自動車用材料共同調査研究会の活動を推進
計測自動制御学会	自動車制御とモデル部門委員会の活動で連携
新構造材料技術研究組合	構造形成技術部門委員会の活動で連携
FISITA	FISITA 執行役員会並びに理事会の副会長・理事の要職に本会役員などが就き、FISITA 組織・活動に参画 FISITA World Mobility Summit 2019(名古屋:2019年11月)の開催に協力
APAC	APAC-20(バンコク:2019年4月)の開催に協力
SAE International	
国際会議の共催	国際会議共催の協力覚書のもと、2019P,F&L(京都/本会主担当:2019年8月)、SETC2019(広島/本会主担当:2019年11月)を開催
英国機械技術者協会 (I Mech E)	MOUに基づき友好的協力関係構築の活動を継続推進
中国汽車工程学会 (China SAE)	日中韓自動車フォーラムの開催で連携
韓国自動車工学会 (Korean SAE)	
国際会議	FAST-zero'19(米バージニア州:2019年9月)開催に際し、対応委員会を設立して協力
アジアなど海外に係わる活動	
英文電子ジャーナル	国内外からの英語投稿論文を J-Stage 上で公開する電子ジャーナル「International Journal of Automotive Engineering」を定期配信
CATARC-JSAE Meeting	CATARC(中国自動車技術研究センター)が来日し、中国と日本の標準化活動における意見交換会を開催(本会:2019年9月)

ESV:International Technical Conference on the Enhanced Safety of Vehicles

FISITA: International Federation of Automotive Engineering Societies

APAC: Asia Pacific Automotive Engineering Conference

P,F&L: Powertrains, Fuels and Lubricants Meeting

SETC: Small Engine Technology Conference

FAST-zero:International Symposium on Future Active Safety Technology toward Zero Accidents

## 10 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第5条7号、公益目的事業3）

自動車工学及び自動車技術の向上発展に多大な功績のあった技術者・研究者に対し、自動車技術会賞をはじめとして、以下の賞を授与した。

### 技術者・研究者対象の研究業績等の表彰

第69回自動車技術会賞	学術貢献賞1件、技術貢献賞1件、浅原賞学術奨励賞4件、浅原賞技術功労賞3件、論文賞9件、技術開発賞8件を授与
技術教育賞	2件に授与
技術部門貢献賞	46名に授与
自動車技術会フェロー	30名に称号を授与
学術講演会 優秀講演発表賞	春季大会講演から11件、秋季大会講演から8件に授与
標準化活動功労感謝状	標準化活動に顕著な貢献があった11名に感謝状を贈呈
ITS 標準化活動功労 感謝状	ITS 標準化活動に顕著な貢献があった3名に感謝状を贈呈
出版・編集功績感謝状	本会の出版物の編集・出版活動に顕著な貢献があった方に感謝状を贈呈 編集功績感謝状6名、出版功績感謝状7名
学術講演会運営功績 感謝状	学術講演会の運営に顕著な貢献があった1名に感謝状を贈呈

### 学生対象の業績表彰

大学院研究奨励賞	128名の大学院生に授与
学自研功労賞	12名の学生に授与
優秀ポスターセッション賞	1研究室に授与

## 11 その他この法人の目的を達成するために必要な事業（定款第5条8号）

### 公益社団法人対応業務

内閣府への事業報告 ・決算書の提出	定時総会終了後、事業報告・決算書の提出を内閣府に対して行った。 (電子申請)
----------------------	---

寄附金 12名の方から総額144,000円の寄附金をいただいた。

### 代議員会・委員会・だいじん会

代議員会	第2回代議員会(2020年1月31日)を開催し、2019年度事業報告・予想決算、及び2020年度事業計画・予算について報告を行った。
運営企画会議	・戦略企画推進WGにおいて、長期的事業戦略及び事業方針である「2050年チャレンジ」と「ロードマップ」の実現に向け、技術会議・企画会議・編集会議・教育会議・表彰会議・全日本学生フォーミュラ会議・展示会企画会議の計7会議体のロードマップの進捗管理を行った。 ・各会議体相互の連携を図るため会議体議長による横連携連絡会を行った。
総務委員会	・2019年5月と10月に「女性技術者ネットワーキングカフェ」を開催した。 ・昨年度より会員減少傾向に転じていることについてのデータ解析、対策を検討するため、第1回総務委員会を11月22日に開催した。 ・総務委員会傘下に会員対策タスクフォースを設置し、会員減少の対策について、検討を行った。
広報委員会	・プレスリリースを15件配信 ・ニュースレターJSAE Eyeを発行(4月、7月、10月、1月の年4回発行) ・各種メディアへ積極的にアプローチするなどの広報活動を継続
第56回だいじん会	2019年11月22日(金)にアルカディア市ヶ谷で開催し、名誉会員18名が参加。

<b>規則制定・改正</b>	
制定	なし
改正	第5回理事会決議:規格会議組織規則 第7回理事会決議:給与規則、決裁規則
<b>会員増強</b>	
関東支部	理事派遣元企業20社へ支部長名で会員増強活動推進を依頼した。春季大会無料送迎シャトルバスの運行継続。魅力ある支部行事の企画実施。
中部支部	新たにイベント企画と情報発信の2つのWGを立ち上げた。CASEなどの新技術領域の方にも入会してもらえよう、魅力ある中部支部独自のイベント企画と、中部支部活動を幅広く知って貰うために本部を巻き込んだ情報発信方法などを検討中。2回の支部理事会で会員増強協力を依頼した。
関西支部	2019年度までの会員目標を設定し、3回の会員・魅力拡大委員会、担当理事を介して各団体へ協力を要請した。
<b>ウェブサイトを活用した会員サービス</b>	
新規システム構築	ワークショップ動画サイト、EngineReview サイトリニューアル
システム・データ更新	学生フォーミュラ集計・表彰システム、学生フォーミュラ支援システム、キッズエンジニアサイト、カーデザインコンテストサイト、J-Tech Paper Entry System(国際会議論文受付システム)、請求書発行システム、書籍販売システム、中部支部イベント受付システム、アンケートシステム(クエスタント)、支部ウェブサイト、JASO Standards(English ver.) Viewer、書誌情報の電子化、オンデマンドライブラリー、委員情報システム、Office ソフトウェア入れ替え、データベースサーバの入れ替え、セキュリティソフト入れ替え
<b>支部総会・役員会</b>	
北海道支部	支部総会1回、特別講演会1回、支部理事会2回(内、メール開催1回)開催
東北支部	支部総会1回、支部理事会3回、学自研参与会2回開催
関東支部	支部総会1回、理事会3回(内、顧問同席2回)、顧問会1回(新型コロナウイルスの影響により中止)、事業担当理事会30回開催、ワーキンググループ(学生を自動車業界に惹きつける活動検討)3回開催
中部支部	支部総会1回、理事会2回、担当理事会2回、常任幹事会4回、担当幹事会5回、さんぼう会2回、各事業別企画委員会83回開催
関西支部	支部総会1回、理事会2回、各事業別企画委員会4回、編集委員会4回、合同会議1回
九州支部	支部総会1回、理事会2回、常任理事会4回

## 参考：事業区分の説明

### 公益目的事業 1 資料収集事業・調査研究事業

専門家による研究・調査に関する委員会活動並びに規格・標準化の推進及び普及活動を通して、自動車に係わる技術情報を調査・収集・選定・提供することにより、自動車の環境性能、安全性能及び利便性の向上に寄与する事業

- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術、抄録誌、諸元表等）
- ・ 調査及び研究（定款 5-1）
- ・ 規格の作成及び普及（定款 5-5）

### 公益目的事業 2 研究発表事業・表彰事業

国内外の技術者及び研究者に対して研究成果発表の機会を提供し、技術情報及び技術者・研究者間の交流を促進することにより、技術及び研究レベルの向上を図り、自動車技術の発展に寄与する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：春季大会、秋季大会）
- ・ 内外の関連機関、団体等との提携及び交流（定款 5-6：FISITA、APAC、SAE-Intl.等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：自動車技術会論文集、IJAЕ 誌、予稿集等）

### 公益目的事業 3 人材育成事業

児童、学生及び技術者の各層に対応した教育プログラムを提供すると共に、教材の開発、優秀技術者の表彰及び資格付与を行うことにより、人材の育成を図る事業

- ・ 人材の育成（定款 5-4）
- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：シンポジウム等）
- ・ 学術誌及び学術図書の発行（定款 5-3：ハンドブック、用語辞典、教育図書等）
- ・ 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款 5-7）
- ・ 支部活動（定款 5-8：講習会、見学会等）

### 収益事業 展示会事業

自動車に係わる技術者及び研究者を対象として、最新技術に関する製品展示及び技術発表を行い、技術及び研究レベルの向上に寄与するとともに、利益を公益目的事業の実施に資する事業

- ・ 研究発表会及び学術講演会等の開催（定款 5-2：展示会）

### その他事業 会員事業等

各地域での会員間の交流を促進し、事業活動の活性化を図ることにより、自動車技術会の活動基盤の強化に寄与する事業